

古今東西 くんぐん 行きます!

郡市長がさまざまな現場を訪問し
市民の皆さまの活動の様子な
どをお伝えします



▲出店者と商品や購入する量について話しながら買い物を楽しめます

「このマルシェを始めたきっかけは、ハムを一枚から買える仕組みを作りたいと思ったことでした」と教えてくれたのは、ハムやベーコンを製造する有限会社ジャンボン・メゾン代表取締役の高崎かおりさん。パッケージが商品開発後すぐに捨てられることにも問題意識を持っていたそう。その思

持続可能な社会を目指し、プラスチックごみや食品ロスの削減に取り組む「量り売りマルシェ仙台」を訪問しました。

共感から広がる輪

「必要なものを必要な分だけ」をテーマに毎月開催されている「量り売りマルシェ仙台」。この日は、北洲ハウジング寺岡展示場を会場に、総菜や菓子、花などのお店が12店舗出店し、にぎわいをみせていました。

いに、高崎さんの商品開発を支援していた料理教室「紫山のごはん会」代表の佐藤千夏さん、商談会を通じて知り合ったPLANNING LABORATORY主筆の渡辺沙理さんが賛同。ごみが出ないようお客さんに容器を持参してもらい、令和元年6月、佐藤さんのキッチンスタジオで「量り売りマルシェ」をスタートさせました。

暮らしの豊かさを次世代へ

量り売りは、生活の中での思考や判断にも良い影響があるといえます。渡辺さんは「私自身、元々環境への意識が高かったわけではないのですが、活

持続可能な社会を目指して

環境問題だけではなく、暮らしの豊かさについても考えさせられる取り組みに、深く感銘を受けました。また、皆さんが「新たな時代を切り開いていく」という思いで生き生きと活躍されている姿を大変心強く思います。

資源循環都市づくりを進める本市としても、持続可能なまちの実現に向けて今後取り組みがまいります。



▲上段：左から高崎さん、渡辺さん。下段：左から佐藤さん、市長、山家さん

